

## 概要

○芳賀地域は、耕地面積の約8割が水田であり、米の価格は社会情勢の影響を強く受け、価格の年次変動が大きく不安定。

○そこで、土地利用型作物経営体の経営安定化を目指し、より収益性の高い水田を活用した露地野菜の導入拡大を推進。中でも「加工用じゃがいも」は水稲との作業競合が少なく、契約栽培のため単価が安定しており、作業の省力化を目指した機械化一環体系による大規模経営が可能な品目として着目。

○令和6年産加工用じゃがいもの作付けは、令和4年産から約10倍に増加し、**栃木県全体の約4割を占める16haまで拡大。**

## 具体的な成果

### 1 加工用じゃがいもの作付拡大

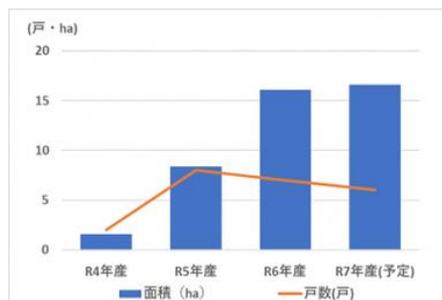
- ・若手の耕種農家（2名）から導入が始まり、その事例を参考に集落営農組織やこんにゃくの機械を作業に流用できる茂木町のこんにゃく部会員の作付けが開始された。
- ・実演会やセミナー等を通じて、令和4年産から6年産にかけて作付面積が増加した。

（令和4年産 → 令和6年産）

1.6 ha → 16ha

### 2 水田における加工用じゃがいも栽培の実用性

- ・作付面積の拡大にあたり、畑のほか、水田への作付けが必要となるが、水田への作付けは排水性が課題である。
- ・在来田（水田）と開田（畑として利用）に実証ほを設置し、収量・品質の比較調査を行った結果、在来田の方が収量が高く、品質の差がないことが実証された。



加工用じゃがいもの作付面積・戸数の推移



収穫実演会の様子

## 普及指導員の活動

令和4年度

- 加工用じゃがいもの取組開始に向けた補助事業の活用支援。
- 加工用じゃがいもの生産拡大に向けた他産地事例の調査。

令和5年度

- 水田における加工用じゃがいも栽培の実用性について、実証ほの設置。
- 土地利用型作物経営体を対象とした、省力化機械を用いた定植・収穫実演会の開催及びセミナーを活用した優良事例の紹介。

令和6年度

- 芳賀町（じゃがいもの収穫機）と茂木町（こんにゃくの機械）の2地区で、機械収穫実演会を開催。セミナーを活用した優良事例の紹介。

令和7年度

- R6年度に病害の発生が目立ったことから、関係機関と連携し、現地巡回や栽培管理等の情報提供を実施。

## 普及指導員だからできたこと

- ・実演会やセミナーの開催を通じて、また、実証ほの結果を踏まえながら、加工用じゃがいもの作付推進を図ることができた。
- ・関係機関を巻き込みながら作付推進や新規導入者の栽培に関わるフォローアップを行うことで、経営安定化に助力することができた。

## 土地利用型作物経営体への露地野菜導入の推進

活動期間：令和4年～（継続中）

### 1. 取組の背景

本県が推進する「園芸大国とちぎ」の実現に向け、土地利用型作物経営体の経営安定化が求められている。これまでも、大規模露地野菜経営体の確保・育成に向けて、水田を活用した露地野菜の導入拡大を推進してきた。その中で、令和4年から管内での露地野菜導入の新たな品目として「加工用じゃがいも」の栽培取組が開始された。「加工用じゃがいも」は水稻との作業競合が少なく、契約栽培であるため単価が安定している。また、機械化一貫体系により、作業の省力化を図ることができる。これらのメリットに着目し、関係機関・団体と連携の下、作付推進を強化した。

### 2. 活動内容（詳細）

#### (1) 指導・支援の体制

各活動を推進するため、農業振興事務所は関係機関・団体との支援体制の構築や栽培技術指導、補助事業等の活用支援を行い、市町及びJAは加工用じゃがいもに関する意向調査や実演会の開催に向けた支援を行った。

#### (2) 活動経過

##### ア 土地利用型経営体への推進

新規生産者の掘り起こしの一環として、主に土地利用型作物経営体を対象に令和4年から機械を用いた定植及び収穫実演会を開催した。令和6年には芳賀町と茂木町で計2回の収穫実演会を開催した。また、令和5年の「水田農業収益力向上セミナー」において、加工用じゃがいもの導入について優良事例発表をし、水稻との労働競合がなく、所得向上に繋がる等のメリットを周知することで理解が進んだ。



収穫実演会の様子

##### イ モデル産地への機械導入支援

芳賀町の土地利用型作物経営体2戸をモデルとして産地計画を策定し、補助事業の活用により収穫機やブームスプレーヤー等の導入支援を行った。

##### ウ JAはが野こんにゃく部会への推進

こんにゃくの機械を用いてじゃがいもの栽培が可能であることから、JAはが野こんにゃく部会を対象に加工用じゃがいもに関する意向調査を行い、4戸に対し作付を推進した。

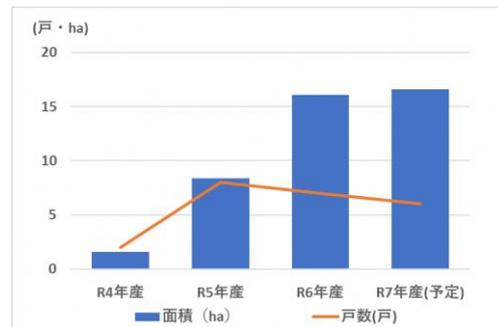
## エ 水田における加工用じゃがいもの栽培実証

加工用じゃがいもが水田でも栽培が可能か、従来からの水田の在来田と新たに開墾された水田である開田で実証試験区を設置し、生育・収量・品質について調査した。

### 3. 具体的な成果（詳細）

#### (1) 加工じゃがいもの作付拡大

実演会による推進や機械導入の支援、巡回指導等の結果、令和4年産では1.6haだった作付面積が、令和6年産では県全体の約4割を占める約16haにまで拡大した。若手の耕種農家から導入が始まり、その事例成果等を参考に集落営農組織やこんにゃくの機械を作業に流用できる茂木町のこんにゃく部会（2名）の作付けが開始されるなど取組が波及している。



加工用じゃがいもの作付面積・戸数の推移

#### (2) 水田における加工用じゃがいも栽培の実用性

在来田と開田での調査の結果から、在来田の方が開田よりも収量が高く、品質による大きな違いがなかったことから、水田での生産も可能であることが明らかになった。

### 4. 農家等からの評価・コメント

- ・加工用じゃがいもは水稲との作業競合が少ないため、導入しやすい。また、周年で従業員を雇用するのにあたって、仕事を作出できるためいい品目である（芳賀町 M氏、Y氏、益子町 N氏）。
- ・契約栽培のため単価が安定しているのが、メリット。また、栽培期間が短く、短期間で収益を上げることができる（茂木町 I氏）。
- ・実需先からの栽培指導・栽培マニュアルがあるため、初めて本品目を栽培する際にも、安心して導入を開始することができる（芳賀町 M氏、Y氏）。

### 5. 普及指導員のコメント（芳賀農業振興事務所・技師・鈴木晴香）

資材や農作物の価格は社会の情勢を強く受け、大幅に変動しており、生産現場における経営への負担は増加している。そのため、安定した経営を実現するための対策を取る必要があり、その1つとして、「安定した価格」で「他作物との作業競合が少ない」、契約栽培の加工用じゃがいもの導入推進を図ってきた。

加工用じゃがいもの導入により、新たな収入源の確保や雇用の安定の面で効果が出ていると感じている。更なる経営の安定化を目指し、新規導入者の確保や産地拡大という観点からも、今後も単収向上に向けた指導を行うとともに、作付拡大を図っていきたい。

## 6. 現状・今後の展開等

### (1) 土地利用型作物経営体への推進

これまでの加工用じゃがいもの作付推進は、実演会を通じた推進が主であった。今後も土地利用型作物経営体の経営安定化、集荷体制の確立を図るため、関係機関と情報交換しながら新規作付志向者の掘り起こしや既存生産者の規模拡大の支援に取り組んでいく。

### (2) 水田における加工用じゃがいもの作付推進

水田での生産も可能であることが調査の結果から明らかになったが、排水対策の面での課題が浮き彫りになった。栽培における課題について他産地の事例を参考にしながら検討し、水田で栽培可能な作物としても、作付推進に取り組んでいく。